



News Letter 2014 No.2

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第38号 発行 2014年11月26日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平

〒192-8508 八王子市宮下町 476 杏林大学外国語学部

Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用)

email: jimujsthe.org ◇学会 URL : http://jsthe.org

◇編集・発行人：野口洋平 (yohei_noguchi@icloud.com)

【2014年度全国大会のご案内】

今年度の全国大会は、2月28日(土)と3月1日(日)の2日間にわたり、立教大学新座キャンパスにて実施することが決定いたしました。テーマは「オリンピック・パラリンピック教育と観光ホスピタリティ教育」です。

大会プログラムの概略と研究発表の申込方法、ワークショップテーマの申込手順についてご案内申し上げます。一人でも多くの方にご参加いただけますようお願い申し上げます。なお、プログラム詳細や参加申込につきましては、1月中旬にお届けする予定です。

1. 大会概要

(1) 開催日 2015年2月28日(土)・3月1日(日)

(2) 開催地 立教大学 新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

メイン会場 8号館

(3) プログラム概要

<1日目 2月28日(土)>

午前中 理事会

12:30 受付開始

13:00 開会式

13:05 研究・教育実践発表

15:00 基調講演(講師人選中)

16:10 シンポジウム(パネリスト等人選中)

18:00 懇親会(学生食堂「こかげ」)

<2日目 3月1日(日)>

9:20~ 受付

9:30 ワークショップ話題提供

10:40~12:10 ワークショップ

第1会場~第4会場(テーマ募集中)

12:10~13:10 休憩

13:10~14:10 ワークショップ報告

14:10~14:15 閉会式

※ プログラムの内容・時間等は変更することがあります。

2. 研究・教育実践発表の募集について

研究・教育実践論文および教育実践報告の発表者を募集します。いずれも、会員または会員を含む連名による発表が条件です。希望される方は、学会ウェブサイトにある募集要項(全国大会様式1)と執筆要領(全国大会様式2)、応募用紙(全国大会様式3)をダウンロード、ご覧のうえ、応募用紙に必要事項を記入し、電子メールで2015年1月9日(金)までに送付ください。

応募用紙を受け取り次第、大会論文執筆フォーマットをメールでお送りいたしますので、執筆要領にしたがって大会論文集用の原稿を作成し、2月3日(水)までに電子メールで提出していただきます。なお、発表査読は行いませんが、内容・様式に著しく問題がある場合は、発表を認めない場合があります。また、研究発表論文集費用(5,000円)は大会当日にお支払いいただきます。

※ 発表応募締切 2015年1月9日(金) 必着

※ 発表論文完成原稿締切 2015年2月3日(水) 必着

<大会論文集担当>

発表のご応募やお問い合わせはこちらまで。

中村学園大学流通科学部 浅岡柚美

電話：092-851-2531(内線540)

電子メール：taikai@jsthe.org ※電子メールが確実です。

3 大会参加費

参加費：正会員・一般 2,000円、準会員・大学院生 1,000円、学部生 無料

懇親会費：正会員・一般 4,000円、学生 3,000円

【総会・講演会報告】

2014年6月21日(土)、東海大学代々木キャンパスにて、2014年度の総会ならびに講演会、シンポジウム、懇親会が開催されました。参加者数は、一般参加9名を含む、46名でした。

基調講演は、初代観光庁長官であり、京都大学経営大学院特命教授の溝畑宏氏より、「2020東京オリンピック・パラリンピックとスポーツツーリズム」というテーマでお話しいただきました。これら一連のイベントは東京だけに限られたイベントではなく、選手団のトレーニングの受け入れや、オリンピック・パラリンピック観戦に付随して発生する日本全国での観光需要にどのように対応するかといったポイントも指摘されました。

シンポジウムは、総会において新会長に就任した小畑力人氏（追手門学院大学）をモデレーターに、基調講演に引き続いて溝畑氏、石坂友司氏（奈良女子大学）、小澤考人氏（東海大学）をパネリストに迎え、「オリンピックレガシーと東京オリンピック・パラリンピック」というテーマのもと、議論が展開されました。石坂氏、小澤氏とも、近代オリンピックが社会にどのような影響を与えてきたか、オリンピックそのものが時代とともにどのように変化してきたか、といったことを明解に解説してくださいました。基調講演、シンポジウムの内容は、学会の機関誌『観光ホスピタリティ研究』に掲載予定です。

会場をご提供いただきました、東海大学と運営を手伝って下さいました東海大学観光学部生の皆様に、あらためて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

【理事会報告】

<2014年度 第2回定例理事会>

(1) 日時：2014年6月21日（土） 11:00～12:45

(2) 場所：東海大学代々木キャンパス5号館4階5404教室

(3) 出席者：村上会長、小畑副会長、益山副会長、浅岡理事、海老澤理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、古本理事、宍戸監事、安島監事、鈴木幹事

欠席：市岡理事、中村理事、吉田理事、高嶋幹事、野口幹事、安江幹事（委任状3通）

(4) 議題

1) 入退会審査・名誉会員について

- ・ 入退会審査該当者なし。
- ・ 名誉会員1名承認（白坂蕃氏）

2) 2014年度総会・講演会について

- ・ 事務局より、2013年度決算ならびに2014年度予算が報告され了承されました。
- ・ 総会議事に関する報告が行われ、了承されました。
- ・ 次期役員推薦委員会より、次期役員案が示され、了承されました。

3) 研究助成・行動倫理について

- ・ 会長より、日本観光ホスピタリティ教育学会における研究倫理の向上、利益相反行為の防止ならびに研究助成を伴う研究活動の強化について資料を基に説明が行われました。
- ・ 倫理規程整備のための委員会を置くことが了承された。
- ・ 研究助成制度の整備と連動させながら準備することが承認されました。

4) 理事の旅費補助および電子メール審議に関する内規

について

- ・ 役員の理事会参加にともなう旅費について、これまで学会からの補助制度がなかったが、片道200km以上を超える場合に1人年間1回、10,000円を上限として旅費を支給することが承認されました。
- ・ 理事会の議決に関して、電子メールで承認を得る仕組みの内規が示され、承認されました。

5) 編集委員会報告

- ・ 機関誌第8号の2015年1月末刊行に向けた作業の進捗状況が報告されました。
- ・ 機関誌第9号の刊行計画が承認されました。

6) 大会・研究会テーマについて

- ・ 総務担当丹治理事より、全国大会や研究会において議論すべきテーマについて検討する必要がある旨が報告され、地域連携、語学教育、学びのセーフティネット、競争的資金獲得などの多数のキーワードが挙げられた。

7) 事務局移転について

- ・ 現在、事務局のある杏林大学外国語学部が、八王子キャンパスから三鷹キャンパスに移転する2016年度を目途に事務局を他大学に完全移転すべく、準備を進めていることが報告されました。
- ・ 事務局業務の一部外部委託化についても、事務局移転やウェブサイトの再構築と合わせて作業を進めていく予定であることが報告されました。

(以上)

<2014年度 第3回定例理事会>

(1) 日時：2014年9月6日（土） 14:00～17:30

(2) 場所：東海大学代々木キャンパス4号館4階4413教室

(3) 出席者：小畑会長、浅岡副会長、宍戸副会長、鈴木泰夫理事、鈴木涼太郎理事、館野理事、丹治理事、野口理事、古本理事

欠席者：朝倉理事、海老沢理事、高橋理事、永田幹事、安江幹事、安島監事、吉田監事

(委任状3通)

オブザーバー：村上評議員

(4) 議題

1) 総会・講演会実施報告

- ・ 実施報告及び決算報告があり、承認されました。

2) 役員の役割分担について

- ・ 役員の役割分担と委員会メンバーについて確認及び承認されました。（（ ）に所属のある方は役員以外の委員）

編集委員：浅岡委員長、鈴木涼太郎副委員長、市岡氏（多摩大学）、中村氏（玉川大学）、益山氏（松本大学、第8号刊行まで）、小槻氏（神戸夙川学院大学、第9号から）、安江幹事

広報委員：海老澤委員長、高橋理事、野口理事、永田幹事

倫理委員会：村上委員長、朝倉理事、舘野理事、鈴木泰夫理事、中村氏（玉川大学）。丹治理事はオブザーバーとして参加

新規事業ワーキンググループ：宍戸リーダー（メンバーの人はリーダーに一任）

務局業務の効率化との関連性などの点から外部委託を行うことになりました。

- 相見積もりを取って引き続き検討することとなりました。

9) 入退会審査

- すべて承認されました。
- 入会 島田由香、藤島喜代仁、金振晩、志村良浩
- 承認後の会員数は、正会員 143 名、準会員 10 名、特別会員 1 団体、名誉会員 3 名、合計 157 名です。

(以上)

3) 編集委員会

- CiNii の終了にともなう対応について、現状報告があり、今後の対応については、編集委員会および理事会で検討することになりました。
- 編集委員会規定の見直しについて、承認されました。
- 第8号で、投稿受付から校正まで、すべて電子メールでやりとりすることを試験的に導入することになりました。
- 投稿料は無料に変更し、この規定は第9号から適用することになりました。
- 編集委員会に関連する規定等について、速やかにウェブサイトに掲載することになりました。

4) 広報委員会

- 「観光甲子園」の関係者への広報、観光系大学院生への勧誘活動の強化など、会員増強を展開することになりました。

5) 第14回全国大会について

- 概要の検討が始まりました。

6) 研究会について

- 今後の研究会の時期および内容について検討が始まりました（継続審議）。
- 次回研究会は、「観光ホスピタリティ教育における英語教育の位置づけ」等、英語教育に関することに決定し、引き続き理事会で検討することになりました。

7) 倫理委員会について

- 倫理規定、行動規定については、目的、作業、決定手続き、日程の項目を検討することになりました。
- 引き続き倫理委員会で検討することになりました。

8) ウェブサイト外部委託について

- ウェブサイトの技術的課題、管理体制の課題、事

<2014年度 第4回定例理事会>

- (1) 日時：2014年11月22日（土） 13:00~14:45
- (2) 場所：立教大学池袋キャンパス13号館会議室
- (3) 出席者：小畑会長、浅岡副会長、朝倉理事、海老澤理事、鈴木（泰）理事、高橋理事、丹治理事、野口理事、古本理事
欠席者：宍戸副会長、鈴木（涼）理事、舘野理事、永田幹事、安江幹事、安島監事、吉田監事
（委任状4通）

1) 第14回全国大会企画

- 資料に基づいて丹治理事から説明がありました。
- 開催日は2015年2月28日（土）・3月1日（日）、会場は立教大学新座キャンパスになりました。
- 大会テーマは「オリンピック・パラリンピック教育と観光ホスピタリティ教育」になりました。
- 基調講演者は、嘉納治五郎記念財団、筑波大学オリンピック教育プラットフォーム等への依頼を検討することになりました。
- 今後の告知スケジュールについて確認されました。
- 大会論文集の書式等については浅岡理事を中心に見直し等を行うことになりました。
- パネルディスカッションのパネラーが検討され、引き続き理事会 ML で検討することになりました。
- ワークショップテーマ案として、高大連携・接続、具体的なインターンシップの課題、単位の実質化、ゼミ単位でのキャリア教育、などが提案されました。ML で引き続き検討することになりました。
- 参加費等は従来どおりとし、学部生は無料とします。
- 大会実行委員会は、橋本（または安島または村上）、丹治、野口、古本、浅岡、金振晩、永田、福本、ほかで組織する予定です。実行委員長は開催校の立教大学所属の会員に依頼することになりました。

2) 2015年度総会・講演会について

- 会場として、川村学園女子大学目白キャンパスま

たは立教大学新座キャンパスを候補として検討することになりました。

- 日程は2015年6月の土曜日を候補とし、次回の理事会にて検討し決定することになりました。

3) 編集委員会報告

- 浅岡理事・委員長から資料に基づいて報告がありました。
- 機関誌第8号の進捗状況について報告がありました。
- 第9号の計画について報告がありました。
- CiNiiへの対応について引き続き検討し、次回総会までに提案することになりました。

4) 総務委員会報告・審議

- 学会ウェブサイトの外注について丹治理事・委員長から説明がありました。
- 見積もり額の比較検討の結果、アローズ社に委託することになりました。
- 古本理事から、日本学術会議（日本学位授与機構）からの大学設置認可審議等の「専門委員推薦」等の依頼について説明がありました。
- 参加可能な方がいるかどうか、自薦も含めて引き続き検討することになりました。

5) 倫理委員会報告

- 次回理事会で検討することになりました。

6) 研究会について

- MLで検討することになりました。

7) 入退会審査

- 正会員の入会1件が承認されました。
- 入会：峯俊智徳
- 承認後、現会員153名（正会員140名、準会員10名、名誉会員2名、特別会員1名）となりました。

8) その他

- 研究助成を含む、新事業に関するワーキンググループについて、早急にメンバーを決定することになりました。
- 理事改選が行われたため、理事会メンバーの自己紹介が行われました。
- 次回の理事会は、1月10日（土）13～15時、会場は帝京平成大学となりました。

(以上)

【機関誌編集委員会】

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第9号
＜投稿原稿募集のお知らせ＞

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育（英語名：Annals of Tourism & Hospitality Education）』の投稿原稿を募集します。

観光ホスピタリティ分野の教育活動を行っている大学院、大学、短期大学、専門学校、高等学校はますます増加しております。会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや学術的な研究の成果をぜひ、本学会の機関誌でご発表ください。

会員の皆様からの投稿を編集委員会一同、心からお待ちいたしております。また、編集委員会から原稿執筆などをお願いした際には、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

第9号の原稿締切日：2015年4月30日（木）

原稿投稿先：投稿申込書1部と審査用原稿1部をPDFあるいはワードのファイルにて（PDFが望ましい）、本学会本部事務局（jimu@jsthe.org）にメールで送付。投稿申込書は本学会ホームページよりダウンロードください。

なお、投稿規定、執筆要項、審査規定が2014年11月22日付けで変更となり、第9号から電子媒体での投稿となりました。ご確認くださいませようお願ひいたします。
(以上)

【研究会報告】

2014年11月22日（土）15:00～17:00（場所：立教大学池袋キャンパス13号館会議室）に開催された、2014年度第2回研究会についてご報告します。

今回は、「グローバル人材育成と観光ホスピタリティ教育を考える」をテーマに、明治大学政治経済学部長の大六野耕作氏を講師に迎えて行いました。

まず、明治大学政治経済学部の最先端のグローバル・教育プログラムや英語教育について、具体的な教育実践の事例を含めてご紹介いただきました。海外留学においては、基礎英語力強化、留学体験プログラム、留学実践プログラムの3ステップが用意され、各種プログラムのための提携大学も世界中に広がっています。特に、トップスクールセミナーと呼ばれる、提携大学からの招聘教員による学内での留学体験プログラムがユニークです。

提携先の大学の開拓においては、学部長である大六野氏自らが先方に出向き、積極的なアプローチを行っていることが紹介されました。特にアジアの大学では、現地の特性に合った交渉が必要であるとの指摘がありました。

後半に行われた質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられ、大六野氏からは丁寧な回答がありました。各種プログラムで英語力を飛躍的に向上させる学生がいる一方で、比較的英語が苦手な学生への対応も別途行っていることなどが紹介されました。また、こうしたプログラムの展開には、学内でのしっかりとした体制作りが重要で、加えて担当部署との密接な連携が必要であるとの指摘がありました。



集約して発信するなどの実験を重ねています。また、フェリーで関西を訪れる旅行者向けに宝塚市国際観光協会の協力を得て宝塚への誘客を考えるフィールドワークを実施するなど、デスティネーション側と連携した取り組みも行っています。

今年度は大谷の国外研究のためにゼミが開講されていない関係で活動を縮小していますが、学生有志がイベントクルーズの企画や実施に関わるなどの取り組みを継続しており、また来年度に大谷のゼミを受講予定の2年次生が後期から代講担当の教員ならびにさんふらわあ社の担当者とともに勉強会、船内見学などの活動を始めています。12月には大隅半島の観光資源調査を行う予定です。

学生達は若者の目線でフェリー旅行の魅力を広く発信するという活動を通じて観光マーケティングを実践的に学ぶとともに、企業や関連団体との協働を通じて、目標を大切にしながら意見を戦わせること、理論・データ・フィールドのいずれをもおさえて考え抜くこと、企業間・業界間のコラボレーションの面白さなど多くのことを学んでいます。

若者にフェリーの旅を広める取り組みとして、具体的な成果につながっているとはいえません。しかし、株式会社フェリーさんふらわあがこの取り組みについて、「第2回若者旅行を応援する取組表彰」（観光庁主催・今年6月）の「近畿ブロック賞」を受賞しました。この受賞を励みとし、若者に船旅の魅力を発信していく取り組みにさらに力をいれるとともに、若者ならではの取り組みで若者に限定しない幅広い層にも船旅の魅力を伝えられる方法を模索していきます。また、さんふらわあ社以外のフェリー会社や地域側の機関・団体、他大学のゼミなど連携先を広げていきたいと考えています。

(情報提供：阪南大学 大谷新太郎)

【観光ホスピタリティ教育の動向】

(1) 若者にフェリーの旅を広める取り組み（阪南大学大谷ゼミ・株式会社フェリーさんふらわあ）

阪南大学大谷ゼミでは観光マーケティングの実践的な学びとして、株式会社フェリーさんふらわあ旅客営業部営業企画室と連携し、学生・若者にフェリーさんふらわあをはじめとするフェリーによる旅の魅力を伝えるとともに、就航先の観光情報なども紹介し、新たな観光需要を創出しようという取り組み（愛称：さんふらわあ若者船旅推進委員会）を2012年度より行っています。学生達は実際にフェリーに乗船し就航先で観光する取材合宿を頻繁に重ね、ソーシャルメディアでリアルタイムな情報を発信し、またウェブサイトでそれらの情報を整理・





せることができる「デザイン能力」をもった女性の育成をめざします。

そこで新たに開設するのが「観光コミュニティ学部」です。

「観光」と「コミュニティ」で、新しい日本を創造（デザイン）しませんか？

ここから始めよう。私たちが創造（デザイン）する新しい日本。

（情報提供：編集人）

2) 川村学園女子大学 観光文化学科目白キャンパスへ

川村学園女子大学では、2000年に我孫子キャンパスにて開設した観光文化学科を、2015年4月入学者から目白キャンパスで受け入れることとしました。来春の入学者から4年間目白で学ぶこととなります。

同キャンパスは、JR目白駅から徒歩2分の場所にあり、都心立地を活かして企業や団体のゲスト講師を倍増させたり、産官学連携の取り組みを拡充したりと、東京という日本最大の観光地を舞台に、アクティブラーニングの充実をはかろうとしております。なお、1学年の定員は40名であり、少人数教育の徹底も目指しています。

観光文化学科の他に、文学部国際英語学科（定員50名）も同様に移転するため、「クロスオーバー学習」という互いの学科の科目を履修できる制度をフルに活用しながら、観光文化学科では、接客現場の最前線でインバウンド対応が可能な人材の育成を目指します。

教育プログラムでは、「観光文化実践」という科目群を充実させ、フィールドワークや施設見学、PBLを取り入れた教育等に力を入れて行く予定です。

目白キャンパスの近くには、同大の法人本部や系列の幼稚園、小中高の校地もあり、接続教育についての検討もはじまろうとしています。

詳細はキャンパス移転の案内をご覧ください。

http://www.kgwu.ac.jp/pdf/kgwu-topics_2015-2.pdf

（情報提供：川村学園女子大学 丹治朋子）

(2) 観光系学部学科の開設、移転の情報（一部）

1) 跡見学園女子大学 観光系新学部設置

跡見学園女子大学において、観光コミュニティ学部の2015年4月設置が認可されました。同学部は、観光デザイン学科（入学定員：120名）、コミュニティデザイン学科（同：80名）から構成され、授業は新座キャンパス（1・2年）、文京キャンパス（3・4年）で開講されます。

新学部の特設サイト（<http://atomi-design.jp/>）には、次のように紹介されています。

「観光コミュニティ学部が創造（デザイン）するもの」

近年、地元の特徴を生かした観光で産業をより活性化したり、人と人とのつながりを見直して地域をもっと元気にしようという事業が日本各地で行われています。これらの事業の特徴は、地域に住む人たちが創意工夫をしていること。

地域の生活・文化に深くかかわってきた女性たちの新たな活躍の場となっています。

跡見学園女子大学は、学祖・跡見花蔭の理念を受け継ぎ、新たな時代を担う自律し自立した女性を社会に送り出してきました。

そして今、新しい事業の創造を「デザイン」と考え、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化さ

【編集人より】

ニューズレターでは、会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

ご協力をお願いします。

編集・発行人 野口洋平（杏林大学）

E-Mail : yohei_noguchi@icloud.com

FAX : 042-691-8617（大学共用）

